

## 第5回幸せになるための教育を実現する会議 議事録

日 時 令和4年9月6日（火）午後3時～午後5時

場 所 庁議室

委 員 神谷、鈴木、大崎、曽根、三浦

そ の 他 市長、企画部長、学校教育課主任指導主事、企画課長

議事録作成者 企画課 内田



### 1. 議題

#### 委員長提案の確認

##### ○委員長

生きる目的が幸せにつながるが一番大切なメッセージだと思います。

この資料は、第1回から第4回までの皆さんの意見を取り入れて作成しました。この文章は、市長への提言に活用したいと考えています。前回の会議の議論を踏まえ、修正しました。最終的には教育委員会等と一緒に取り組んでいくメッセージになります。

ご意見を頂いたうえで修正し、9月22日の会議で最終決定したいと考えています。

##### ○委員

前回の会議でこの会議の目的は、今の教育を変えるわけではなく、幸せという概念を学校教育現場に落とし込んでいくことと理解しましたが、どのあたりで表現されていますか。

##### ○委員長

幸せを感じる人が日本人は少ないようですので、幸せを感じる人を増やしていくことが第一歩の取組であると考えています。3段落目の最後の文章で記述しています。できるだけシンプルにまとめたいと思います。

##### ○委員

2段落目で国の教育予算が少ないことに触れているため、この文章では半田市が教育予算をとて増やしてくれると勘違いしてしまいそうです。話は変わりますが、高齢の方の昔の学校の思い出で、ソフト麺が給食で出る日はワクワクしていたと語る方がいました。ワクワクするような楽しみが幸せ感につながっています。このような些細なことでも楽しみや素敵と感じることが幸せの下支えに繋がると思います。この文章を読ませていただいて感じたことを述べさせて

いただきました。

○委員長

日々の幸せを感じてもらう機会を作れると良いですが、難しい点もあると感じます。

○委員

今の子どもを見ていると、何か感じるよりもやらなくてはならないことが多すぎて、処理になってしまっていると感じます。時間を忘れて熱中できることがあると良いと思います。

○委員

2 段落目の「・・・社会の枠におさまるいい子は育っています」の表現は同感です。私が 30 歳ぐらいの方を対象に研修を行ったことがあります。望まれる回答を選択する能力が高く、発想力を求める能力が足りないと感じました。クリエイティブな発想力が求められてきていない教育の結果であると思います。やりたいことをやらせて、引き上げてあげられる教育ができれば良いと思います。

○委員長

いい子で反論しない子供が、今の時代の転換期では今後、良いことか疑問を感じます。

○委員

2 段落目の記述がこれまでの教育について批判的にとらえられないか心配です。日本の教育予算が最下位であることで、半田市は教育予算を増やしていくと誤解を与える表現は避けるべきと考えます。私の子どもでも、「これでいいの？」と正解を求めて質問してくることがあります。正解を教えてもらうよりも、まずは疑問を感じて、考えることが重要であることを伝えるようにしています。考えることが重要で間違ってもよいという教育が実践できると良いと思います。

○委員長

2 段落目は重要なところですので余分な情報は削除したいと思います。

○委員

高校 1 年生のハンガリーからの女性の留学生と話をする機会がありました。留学生になぜ日本に来たのかと聞いたら、留学するにしてもヨーロッパの別の国でよいのではないかと親に対して、別の文化圏である国を実際に見て、体感するために日本を選択したそうです。親

とは、政治と戦争の話をよくすると言っていました。この留学生は立派な大人だと感じました。戦後 77 年間の教育をそのまま継続している結果、今の日本があると考えます。10 年後の日本がどのようになっているかを考えると危機感しかありません。しっかり将来について考えているとは思えません。戦後 77 年を迎え新しい歴史が始まろうとしています。戦後の教育を受けた私たち大人は幸せについて本当に考えていません。子どもたちが何を感じているかを引き出す教育が必要です。

委員長の文章に戻りますが、もっと簡単に大きく物事をとらえて、だから取り組もうよというメッセージにはいかがでしょうか。一人での修正も大変だと思いますので事務局と協力して完成させてはどうでしょうか。

#### ○委員長

教育を受けてきた人は、日本の凋落に気がついているのではないのでしょうか。GDP をみると、世界で日本は 3 位ですが、一人当たり名目 GDP は 28 位です。日本は、生産性が低く、非効率の国であるといえると思います。世界時価総額トップ 100 にも日本からは 1 社しか入っていません。

#### ○委員

注意しなくてはいけないのは幸せと GDP の順位が一致するわけではありません。国家単位で考えるのであれば正解であると思いますが、個人単位は関係ないことであると思います。少子化についても同じことがいえると思います。幸せという概念を加えて、突き詰めて考えると物の見方が大きく変わります。これは非常に大切なことだと思います。古市憲寿氏の著書にもありましたが、現代の子どもたちは自分の幸せしか考えていません。問題だと思います。

#### ○委員長

幸せという価値観をもって、未来の幸せ、周りの人の幸せなど、幸せを立体的にとらえる力を持つ子どもを増やしたいと思います。

#### ○委員

ウクライナの問題から私たちは何を学んでいるのか。日本人もしっかり自分の頭で考えなければ、人の考えに流されてしまう恐れを感じています。戦前の失敗を繰り返さないか心配です。その対策となるのが幸せになるための教育であってほしいと思います。

#### ○委員長

自国のことを知り、語らなければ、自国の良さを感じることは難しいと思います。

○委員

自分の幸せを考えるにあたって日本や自分の住む地域がどのような背景や特色を知ることが大事だと思います。

○委員

オーストラリアで仕事をしているときに感じたことは、海外にいる日本人の方が、日本のことを知りたがっていると思います。私が赴任していたオーストラリアは多民族国家であるため、国家としてまとまるためには細かいルールが必要です。日本人のフジーな感覚では許されません。日本人の良さを自覚する必要もありますし、海外の背景を知る必要もあると思います。

○市長

委員長の文章を見て長いと感じます。今回の取組を伝える市民の方や教育委員会がどのようにこの文章をとらえるかの視点を考慮する必要があります。幸せになるための教育をなぜ取り組まなければならない理由が、国家力の回復か、生きる目的か不明確ですので、整理が必要だと思います。整理できれば文章がコンパクトにできると思います。

○委員長

一番は生きる目的です。

○委員

10 人いたら 10 通りの生きる目的を確立することが大切です。幸せについて考えていないことが今の問題です。まずは個人の思考をしっかり確立したうえで、次に自立していく、考える力を養っていくのが基本だと思います。

○委員

今回の我々の取組は幸せという概念を教育に投入することであると思います。一人ひとりで自由に考えることが重要です。

○委員長

2 段落目の価値観は重要であると思います。その上で私の文章では最終的に提案その 1 ～その 3 につながっていきます。

○委員

提案その 1 は本質で重要です。提案その 2、3 は軽く、手段・方法です。その 1 だけでも良いと思います。

#### ○委員長

文章は修正しますが、提案その 1 から 3 にあるような表現をした方が、現場の先生方に伝わると思います。提案その 2 は多忙解消との表現から変えました。先生も幸せでなければいけないと思います。先生が子どもと向き合えるための十分な時間が必要だと思います。

#### ○企画課長

1 番重要なことは子どもが幸せになること、そのためには自立し自ら考えることが重要、2 番目は先生方が幸せになること、そのためには負担軽減等があると思います。

その上で文章をスリム化するには委員長の文章では 1 段落目、2 段落目をシンプルにしてはいかがでしょうか。否定的な表現を使わず、超高齢化社会やウクライナ問題、デジタル化社会など例に出し、世の中の仕組みが変わりますので未来志向のメッセージにしてはいかがでしょうか。

#### ○委員

幸せ教育を進めるためには、今、足りないものは何かを明確にする必要があるのではないのでしょうか。

#### ○企画課長

背景は認識する必要がありますが、今だけで考える必要はないと思います。将来足りないものを考えると、自立の必要性を説明する方が受け手の納得度が高まると思います。

#### ○委員

保護者も子どもを育てているときに幸せを感じる事が少なくなっているのも課題なのかもしれません。

#### ○委員

親が子どもを育てるのが大変と言うのは良くないと思います。その子どもが成長した時に、子育ては大変というイメージを持つことにつながると思います。それでは良い社会になっていないと思います。

#### ○市長

第 1 回の会議で発出した私のメッセージでも書きましたが、幸せについて真剣に考えず、安易に他者との比較で優劣をつけていることを憂えています。周りの考えに流されていることを憂います。だから幸せになるためには自立して考えることは重要です。未来志向は皆さんの納得度も高まり、良いと思います。

○委員

未来志向であれば、幸せという概念を教育に取り入れていくことは、短期的なものではなく、長く続けていけるメッセージになると思います。

○市長

この会議での議論、まとめられた提言は取り組んでいかなければならないものと市民に受けとめてもらいたいと思います。その上で、学校の先生方が真剣に取り組んでもらえたら良いと思います。

○主任指導主事

自ら考え判断するなど、今の学習指導要領が目指しているところであると思います。多くの教員が、学習指導要領で掲げる「生きる力」の育成として主体的・対話的で深い学びと幸せを結び付けて取り組むと思います。結果、学習指導要領と幸せになるための教育は同じようなものと理解するのではないのでしょうか。違いを出す必要があるかどうかについては難しい点であると思います。

○委員

学習指導要領が目指す「生きる力」をつける最終目的が「幸せ」と理解できます。幸せは学習指導要領の上にある冠であると思います。

○市長

現状をみると、まだ、多くの市民が高学歴信仰に支配されていると感じます。学習指導要領の成果が見えてないと感じます。

○委員長

生きる力、自立も手段であって、その上に幸せがある理解はその通りだと思います。まず幸せから考えることが良いと思います。

○主任指導主事

生きる力の上に幸せがあることで理解しやすいです。幸せから考え始めれば、幸せを定義する必要もなく、個々で考えていくことも理解できます。そしていろいろな幸せがあることを共有できることも大事だと思います。

○市長

まず、取り組み、発信し続ければ、保護者や先生方の理解も深まっていくと思います。

○委員長

現場で取り組んでいくことが大事だと思います。今日の議論を踏まえ、修正します。次回会議の 22 日までに皆様にメールをして、文面を固めたいと思います。

## **（２）提言にむけての方向性（具体的な実施事業例）**

○事務局

本来、具体的な事業は教育委員会が決定するものですが、今回、議題として取り上げた理由は、具体的な事業の意見交換によって委員の考え方の方向性の共有化を図ることと、委員の立場で自由な発想で事業を考えるために、意見交換を行うためです。

○委員長

花巻東高校では毎日のホームルームで 10 分程度「立志夢実現プランナー」を活用した目的教育を導入しているそうです。夢や志を実現させるために毎日考える時間をとる取り組みです。幸せを考えるのにあたって参考になる取組であると思います。

○委員

今回の取組は半田市から発信していく必要があります。すべて先生一人ひとりに任せることが大きなインパクトであると考えます。

○委員

教員の本来業務への集中のためにも、外部委託や専門職員、外部講師の活用をもっと進めてはどうでしょうか。用務員さんとは別で採点など事務的な雑多のことを行う方を直接雇用するのめいかげでしょうか。

○主任指導主事

半田市の中学校は採点ナビを導入しています。採点に係る教員の負担軽減にはつながっ



ています。

○市長

教育・子育てに対して予算を配分し取組む意向です。有用な手段は取り入れていきたいと考えています。

○委員

教育におけるデジタル導入は半田市以外の市町から見ると半田市は進んでいると聞きました。

○主任指導主事

近隣市町と比べると進んでいると思います。タブレットも各教員に 1 台を導入しています。また、自宅への持ち帰りも可能であり、自宅にオンライン環境のない家庭に対しても手厚い対策を行っています。

○委員

そのような事実を半田市民は知らないので、大きく市報への掲載や様々な方法を使って発信してください。

○委員

デジタル機器等の導入は進んでおりますが、先生の力量の差で使い方が大きく変わるのが課題であると感じます。

○主任指導主事

教員のデジタル能力開発については支援員を配置するなど、技能向上に努めています。その結果、半田市は他地域に比べ、ロイロノート（多くの自治体等が導入している学習能力を高める授業支援アプリ）をすべての教員が使えるなど、進んでいると思います。

また、教員は使い慣れている子どもたちからも学んでおり、教員が教えなくてはいけないという従来の意識も変化してきているのではないのでしょうか。

○委員長

有効なものは導入していったほしいと思います。使い方よりも使う目的が重要だと思います。また、教員の資質向上や学ぶ機会に予算をつけていく必要があると思います。

今回の議論は一つの考え方として、実際の取組を考えていったほしいと思います。



<終了>